

飛行船



新しい年につなぐ

今日で2学期は終わりです。今年の冬休みは例年に比べて少し長い18日。前号でも書きましたが、このチャンスを利用して自分を振り返り、新しい年につながる何かを見つけようね。クリスマス、年の瀬、年明けと街はどことなくフワフワ。それにつられて自分もフワフワではいけませんよ。大事なのは自分を伸ばす努力をすること。(誰も助けてはくれませんが)自分が「その気」になることです。これまでの自分を振り返って、「何が出来て」「何が出来ないのか」「何が出来ていないのか」そういうことを整理しておきましょう。できれば、具体的に紙にひとつひとつ書き出してみるのがいいね。そう、「いまから、ここから」始まるのです。新しい自分に向けての第一歩を踏み出せる準備をお願いします。新しい年は「酉年」。羽ばたく年になる準備です。



「サンタクロースはいるのでしょうか？」

1897年、アメリカの新聞「ザ・サン」の社説に掲載されました。

こんにちは、しんぶんのおじさん。

わたしは8才の女の子です。

じつは、ともだちがサンタクロースはいないというのです。

パパは、わからないことがあったら、サンしんぶん、というので、ほんとうのことをおしえてください。

サンタクロースはいるのですか？ ヴァージニア・オハンロン



ヴァージニア、それは友だちの方が間違っているよ。

きっと、何でも疑いたがる年ごろで、見たことがないと、信じられないんだね。

自分のわかることだけが、全部だと思ってるんだろう。

でもね、ヴァージニア、大人でも子どもでも、何もかもわかるわけじゃない。

この広い宇宙では、人間って小さな小さなものなんだ。ぼくたちには、この世界のほんの少しのことしかわからないし、ほんとのことを全部わかろうとするには、まだまだなんだ。

じつはね、ヴァージニア、サンタクロースはいるんだ。

愛とか思いやりとかいたわりとかがちゃんとあるように、サンタクロースもちゃんといるし、そういうものがあふれているおかげで、人の毎日は、癒されたり潤ったりする。

もしサンタクロースがいなかったら、ものすごくさみしい世の中になってしまう。

ヴァージニアみたいな子がこの世にいなくなるくらい、ものすごく寂しいことなんだ。

サンタクロースがいなくてことは、子どもの素直な心も、つくりごとを楽しむ心も、人を好きって思う心も、みんなないってことになる。

見たり聞いたりさわったりすることでしか楽しめなくなるし、世界をいつもあたたかくしてくれる子どもたちの輝きも、消えてなくなってしまうだろう。

サンタクロースがいないだなんていうのなら、妖精もいないっていうんだらうね。

だったら、パパに頼んで、クリスマスイブの日、煙突という煙突全部を見はらせて、サンタクロースを待ち伏せしてごらん。

サンタクロースが入ってくるのが見られずに終わっても、なんにもかわらない。

そもそもサンタクロースはひとの目に見えないものだし、それでサンタクロースがいなくてことにもならない。

ほんとのほんとうっていうのは、子どもにも大人にも、だれの目にも見えないものなんだよ。

妖精が原っぱで遊んでいるところ、だれか見た人っているかな？

うん、いないよね、でもそれで、いないって決まるわけじゃない。

世界でだれも見ることがない、見ることができない不思議なことって、だれにもはっきりとはつかめないんだ。

あのガラガラっておもちゃ、中をあければ、玉が音を鳴らしてることがわかるよね。

でも、目に見えない世界には、どんなに力があっても、どれだけたばになってかかっても、こじ開けることのできないカーテンみたいなものがかかっているんだ。

素直な心とか、あれこれ逞しくすること・したもの、それから、よりそう気持ちや、だれかを好きになる心だけが、そのカーテンをあけることができ、その向こうのすごくキレイで素敵なものを、見たり描いたりすることができる。

うそじゃないかって？ヴァージニア、いつでもどこでも、これだけ本当のことなんだよ。

サンタクロースはいない？いいや、今このときも、これからもずっといる。

ヴァージニア、何千年、いやあと十万年たっても、サンタクロースはいつまでも、子どもたちの心を、わくわくさせてくれると思うよ。

